

國學院大學學術情報リポジトリ

《研究会報告》令和六年度第二回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 哲彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001525

《研究会報告》

令和6年度第2回研究開発推進センター研究会 「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」

藤 井 哲 彦

一．国外派遣研究の主要目的

報告者（藤井）は今年度（令和6年度）、7月から10月まで3ヵ月間の国外派遣研究を認められ、ブリュッセル郊外にあるルーヴェン・カトリック大学（Katholieke Universiteit Leuven。略称「KU Leuven」）文学部の客員研究員としてベルギーに滞在した。その研究目的の一つに「在欧神社等の現況に関する調査」を挙げていた。

通常は日本人の生活圏内にあるはずの神社がヨーロッパにも存在するという事実については、國學院大學に籍を置く一人として素朴な関心を抱いていた。だが、それらの現況を網羅的に調査・分析した先行研究は存在せず、インターネット上に散在する情報も断片的でしかない。そこで、居住する首都のブリュッセルが欧州各地へのアクセスに適した立地条件であることを活かして、実際に現地を訪問して関係者にヒアリングを行うなどの現況調査を試みた。本研究会で報告する内容は、その調査の概要である。

二．渡欧前の諸準備

そもそも「ヨーロッパのどこに神社があるか」を遺漏なく把握できる公的なデータベースなどは存在しないため、インターネット検索や数少ない関連文献の探索等によって調査対象を抽出するほかない。そこで、本発表で紹介する6件の神社等のうち、渡欧前に存在を把握していた4件に関して、主と

して次の3つの方法による事前調査を行った。

(1) ウェブサイト等を通じた現地関係者への接触

調査対象とした神社等の一部は、独自のホームページを開設して情報発信している。事前に把握していた4件の神社等のうち、フランスの和光神社と Pavilion MIWA、及びオランダの日蘭親善斎宮については、こうした公開情報を通して当該神社等の関係者との間で電子メールや電話、国際郵便によりあらかじめ現地訪問の意図を伝え、準備をしたうえで現地でのヒアリングに臨むことができた。

(2) 日本在住関係者への対面ヒアリング、関係場所訪問

現地に関係者が常駐していないサンマリノ神社については、事前の情報収集が特に重要であるため、創建に深くかかわった駐日サンマリノ大使に面会したほか、同大使館からの紹介を受けて、日本在住の同神社の宮司にもヒアリングを実施した。

(3) 学内の専門家、関係者を通じた情報収集

神道文化学部を擁する本学ならではの調査手法といえる。特に、海外神社の状況に詳しく、本日のコメンテーターでもある菅浩二教授には、事前に多くのご教示をいただいた。他にも複数の教職員から、本学を卒業したヨーロッパ在住の神職や現地の神社等の活動に携わっている現役学生の紹介など、厚意による有益な情報提供を受けた。本調査を行ううえで、本学に在職していること自体が恵まれた環境であったことは間違いなく、改めてご協力いただいた方々に感謝申し上げる。

三. 現地調査の概要

(1) 和光神社（フランス）

【神社概要】

所在地	ヴィルヌーヴ・レ・ジェネ（Villeneuve-les-Genêts） 〔パリ南東約180km〕
創建	2006年（真言宗の寺院〔光明院〕と一体化。寺院の開創は1989年）
勧請元	水屋神社（三重県松阪市飯高町赤桶）
祭神	天照大御神
管理状況	光明院住職夫妻が常駐する邸内社（神職は不在）

① 創建の経緯

真言宗の寺院の敷地内に和光神社としてのエリアがあり、一体化しているため、現地では「光明院」という寺院名の方が広く用いられている。東京の清瀬市にある真言宗の寺院で仏僧としての修行を積んだフランス人男性（医師でもある。法名は「融快」と日本人女性（法名は「融仙」）の夫妻（写真①）が、1989年にこの地で真言宗寺院としての光明院を開創した。その後、神仏習合という発想に共鳴したこの住職夫妻が、2006年に三重県松阪市の水屋神社（写真②・③）。松阪市の中心部から南西へ約30km離れた山間部に位置する）から正式に分社する形でこの和光神社を創建し、現在に至っている。



写真① 光明院の融快・融仙夫妻



写真② 水屋神社（三重県）正面



写真③ 水屋神社の社殿

② 現況

報告者はあらかじめ住職夫妻に訪問の意図を伝え、2024年8月に訪問・参拝した。

訪問時点で、社殿や狛犬、灯籠などは2006年の創建当時に日本から運んできたものがそのまま使用されていた（写真④）。創建当時に建てた鳥居は根元の腐食が進んだため最近になって撤去したとのことで、訪問時にはちょうど、現地で特別に発注した新しい鳥居が納品され、建てる場所を定めている最中であった（写真⑤）。

真言宗の住職夫妻が管理していることから、日常的な宗教活動は夫妻によ



写真④ 和光神社の社殿。以前は狛犬の手前に鳥居が立っていた



写真⑤ 新しい鳥居の位置を測定しているところ

る勤行が中心であり、参拝者も真言宗の信者や関心を持つフランス人が大半だという。在仏日本人から神前結婚式や七五三などのリクエストが時折あり、そうした依頼を受けることもある。ただ、日本人の寺社参拝希望者は単発の行事や祈願を目的とするケースが多く、したがって行事を終えたり祈願が成就した後は来なくなるのに対し、フランス人は初めから仏教や神道への強い関心や信心を抱いてやって来る傾向が強いため、1回限りの参拝ではなく、長期にわたり継続的に通ってくる例が少なくないとのことであった。

毎月第1日曜日には身体健全、安全、招福などの祈祷をする護摩供養が行

331 令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」

われるため（写真⑥）、毎月この日は特に多くの参拝者が訪れる。この写真の撮影当日は、報告者があらかじめ和光神社への参拝を希望していたため、護摩供養に続いて社殿の前で住職が祓詞と祝詞を奏上し、他の護摩供養参加者もこれに参列した（写真⑦）。

勧請元の水屋神社からは、5年ごとに関係者が来仏して大祭を行う慣例に



写真⑥ 光明院で月1回行われる護摩供養



写真⑦ 和光神社での祝詞奏上

令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」330
なっているとのことだが、神職がいないため、月次祭など定例的な神式の祭
事は行われていない。住職夫妻、特にフランス生まれの融快住職は、宗教家
として神道の本質やあり方をもっと深く学びたいが、当地では残念ながらこ
れまでそういう機会が得られなかった、と話していた。

③ 将来の展望

住職夫妻はともに80歳前後で、後継者の具体的な計画があるわけではない
とのことである。そのため、10年、20年後の同寺院・神社がどうなっている
かはわからない。

④ 立地条件と通信事情

パリから自動車で日帰り可能な圏内にあるとはいえ、市街地から遠く離れた
郊外に位置していて、公共交通機関での現地訪問は事実上不可能である。

また、光明院・和光神社を紹介する公式ホームページはフランス語、英語、
日本語の3言語対応型になっているが、日々の勤行を最優先とする住職夫妻
は、その製作・管理を現地の知人に委託している。そのため、ホームページ
上の情報が迅速かつ頻繁に更新されるわけではないし、当該ホームページの
入力フォームに問合せ内容を記して送信したメッセージが長期にわたり夫妻
に届かない（したがって具体的なアポイントメントが取れない）、というア
クシデントにも実際に遭遇した。

このように、現地アクセスや初期の相互連絡の難しさなどに鑑みると、本
日の発表で紹介する6件の神社等の中では、この和光神社が最も訪問の難易
度が高かったといえる。

(2) 日蘭親善斎宮（オランダ）

【神社概要】

所在地	アムステルダム（Amsterdam）
創建	1990年
勧請元	なし
祭神	① Holland-ōkuni-tama-no-kami （オランダオオクニタマノカミ／オランダ大国魂神） ② Ame-no-minaka-nushi-no-kami （アメノミナカヌシノカミ／天之御中主神） ③ Ōnamuchi-no-kami（オオナムチノカミ／大己貴神） ④ Sukuna-hikona-no-kami（スクナヒコナノカミ／少彦名神）
管理状況	オランダ人宮司1名が常駐

① 創建の経緯

ポール・ド・レオ（Paul de Leeuw）宮司（写真⑧）は1979（昭和54）年から1981（昭和56）年にかけて、当時は静岡県浜名湖畔にあった山蔭神道の貴嶺宮で神道の修行生活を送った。1981年3月に「和蘭斎宮宮司」の免許を授与され、「獅子御柱彦（しし・みはしらひこ）」の和名を贈られた。山蔭



写真⑧ 祭壇の前に立つレオ宮司

令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」328
神道に入門したのは、「当時、日本人以外の外国人を神職の修業のために受け入れてくれたのが山蔭神道だけだったから」だという。

オランダに帰国した後、最初は自宅に神道の道場を開き、1990年に現在のマンションの1階フロアに移転した。当初は「オランダ山蔭神道斎宮」という名称だったが、2006（平成18）年の日蘭修交400年祭にあわせて現在の「日蘭親善斎宮」に改称した。

祭神のうちオランダオオクニタマノカミは、日本のヤマトノオオクニタマノカミの存在をヒントに、「オランダにもこの大地を作った神様がいます」と考えたレオ宮司が祭神とした。アムステルダム東方のハルデ（Harde）、エペ（Epe）、ヒールデ（Heerde）の3ヵ所を結ぶ国立公園の三角地帯に1本の大木が立っており、そこがオランダオオクニタマノカミの聖域であるという。

② 現況

報告者はあらかじめレオ宮司にアポイントメントを取り、2024年8月に訪問した。

参拝スペースが屋内にあるため、日本の神社のように誰でもいつでも自由に訪れて参拝するというわけにはいかず、公式ホームページに掲載されているメールアドレスや電話番号等に問い合わせ、訪問日時を予約する必要がある。今回の現地訪問における事前・事後の電子メールでの連絡及び現地でのコミュニケーションは、すべて英語を用いた。

3部屋分の広さを利用した屋内に入ると、エントランスの先に広いフロアがあり、レオ宮司の自作による祭壇が設けられている。日本で正式に神職の資格を得ているレオ宮司は、月次祭をはじめ、定期的な祭事を毎月決まった日に斎行している。個人では結婚式や七五三などの行事、日系企業からは地鎮祭などのリクエストがあり、その都度応じている。

日々の参拝者数は正確には把握していないが、毎年正月の初詣には約200人が訪れるという。そのうち半分は日本人で、残りの半分は地元のオランダ人が多くを占める。日本人以外の参拝者はヨーロッパ各地からやって来る。

ヨーロッパ人の参拝者の多くが神道という宗教に強い関心を持っている点は、フランスの和光神社と同じ傾向である。

参拝に際して、レオ宮司は参拝者から氏名や参拝目的などをその場で聞き取り、その内容に応じてアレンジした祓詞や祝詞を祭壇の前で、日本語とオランダ語により奏上する。今回、レオ宮司の許可を得て、参拝の様子を動画で撮影させてもらったので、日本語による冒頭の祓詞のシーンと、それに続くオランダ語の祝詞奏上の場面を紹介する。

<日蘭親善斎宮における祓詞・祝詞奏上の動画を一部抜粋して放映>

報告者はオランダ語がわからないので、参拝時にはオランダ語の祓詞・祝詞の内容を理解できなかった。ただ、祭神の名をはじめとする固有名詞に違いがあったため、オランダ語の祓詞・祝詞はその直前の日本語をそのまま直訳したのではなく、日本語の内容とは明らかに異なる別のことを話している、ということはその場でわかった。

そこで、報告者が今回の派遣研究期間中に在籍したKU Leuvenがオランダ語圏にあることから、10月初旬に同大学で報告者が講演会に登壇した際にこの動画を披露したうえで、オランダ語を母語とする受講者の中からこの祓詞・祝詞の翻訳の協力者を募った。その結果、KU Leuvenの大学院に在籍するサム・クラウ (Sam Clauw) 氏とノア・アル・ブシュアリ (Noah Al Bouchouari) 氏が、動画のオランダ語部分の文字起こしとその英訳を引き受けてくれた。報告者はその英訳文を邦訳するとともに、オランダ語の原文及び英訳文に含まれる固有名詞のスペルなどを適宜補正した(日蘭対訳表)。

日蘭親善齋宮の参拝時にレオ宮司が奏上した祓詞・祝詞の日蘭対訳表

オランダ語	日本語
Diepgelovig gebogen voor de ... Yamakage-shinto Saigu in Amsterdam, waar ik woorden van dankbaarheid wil uitspreken voor de kami die hier aanwezig zijn, Amsterdam-ubusunokami, Holland-ōkuni-tama-no-kami en Ōnamuchi-no-kami en Sukuna-hikona-no-kami en Dai-genrei Ame-nominaka-nushi-no-kami.	アムステルダムの山蔭神道齋宮の前で拝礼し、ここにおられる神々、アムステルダム産土神（うぶすなのかみ）、オランダ大魂神、大己貴神、少彦名神、大元霊（だいげんれい）天之御中主神に感謝の言葉を述べたい。
Deze ceremonie wordt hier gehouden voor het bezoek dat uit Japan is aangekomen uit Tokio. De gasten zijn vandaag Fujii Tetsuhiko en ●●●●●●* uit Tokio. Namens hen spreek ik woorden van dankbaarheid uit naar de Yamakage-Shinto Saigu Guji... die luistert naar de naam Shishi Mihashirahiko.	この儀式は、日本、東京からの訪問者のために行われている。今日のゲストは、東京から来た藤井哲彦、そして●●●●●●*である。両名に代わり、獅子御柱彦の名を持つ山蔭神道齋宮の宮司が、感謝の意を表する。
Dankbaar dat ik vandaag deze woorden kan uitspreken, dat ik vandaag bezoek hier ontvang, die hun aanwezigheid hier kenbaar maken.	今日、このような言葉を述べられることに感謝する。今日、私はこの訪問を受け、彼らの存在をここに知らしめることができた。
Ik vraag u, ... sama, met hun studiereis door Europa die drie maanden duurt waarin ze verschillende jinja bezoeken die buiten Japan gevestigd zijn in Europa, zoals in Frankrijk, Engeland en San Marino, dat u hun studie zal bevorderen, de kennis en de bekendheid van shintō zowel in Japan als in Europa verder verspreid wordt.	フランス、イギリス、サンマリノなど、日本国外にあるいくつかの神社を訪れ、3ヵ月間にわたってヨーロッパを調査する彼らの旅が、彼らの研究に貢献し、日本とヨーロッパの双方に神道の知識と名声を広めることとなりますように。
Met ……（聴取不能）…… hierdoor zal blijken dat de zuivere waarheid rond shinto duidelijk wordt.	と共に……（聴取不能）……これを通して、神道に関する真実が明らかになるであろう。
Dat deze wereld die verdeeld is en te veel groepen die onderling strijden om macht en daardoor de aarde dreigen te vernietigen, dat deze krachten in de toekomst met elkaar samen werken om van deze aarde weer een prachtige aarde te maken, waarin iedereen op zijn eigen manier kan leven, met elkaar rekening houdt, de natuur respecteert, en daardoor in vrede en geluk en harmonie op deze aarde mogen doorbrengen.	この世界が分裂し、あまりにも多くのグループが互いに権力を争い、そのために地球が破壊されているが、将来、これらの権力が協力して、この地球が再び美しい地球となり、誰もが自分らしく生きることができ、誰に対しても思いやりがあり、自然を尊重し、その結果、この地球で平和と幸福と調和の中で生きることができるようになりますように。
Dankuwel, dankuwel, dankuwel.	ありがとう、ありがとう、ありがとう。

*●●●●●●は報告者の同行者の個人名が入っているため、本稿では伏せている。

【邦訳手順】

I：オランダ語の文字起こし。聴取不能箇所はそのままにする

II：Iを英訳

III：IIを邦訳するとともに、固有名詞のローマ字表記についてI・IIを適宜修正

→I・IIはルーヴェン・カトリック大学所属のサム・クラウ（Sam Clauw）氏とノア・アル・ブシュアリ（Noah Al Bouchouari）氏が、IIIは報告者（藤井）が担当した。

この日蘭対訳表の上から6番目の枠内にある「この世界が分裂し～」というくだりは、現下の国際情勢を踏まえつつ、自然に対する畏れや他者に対する寛容の心の大切さを重視するレオ宮司自身の考えが強く反映された内容になっているように思われる。

③ 将来の展望

オランダで神職だけで生計を維持することは、現実には難しいと思われる。現在は年金受給資格を持つレオ宮司が一人で運営している。1947年生まれのレオ宮司はすでに77歳だが、後継者などについて現時点で具体的な計画がない点は、和光神社と同様である。

④ 立地条件と通信事情

アムステルダム中央駅の東方にある運河に囲まれた住宅街にある（写真⑨）。日本の神社のように屋外にあるのではなく、集合住宅の1階部分の複数のフロアを統合する形で開設されている。中央駅からはトラムに乗って2駅（所要3分）、下車後徒歩10分ほどで到着できるため、訪問日時を予約しておけば誰でも訪れることができる。オランダ語、英語、日本語の3言語で発信する公式ホームページには住所のほか、問い合わせのためのメールアドレス



写真⑨ ガラス張りになっている1階部分の内部が日蘭親善齋宮

令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」324
レスが明示されているので、予約自体も容易である。

(3) サンマリノ神社（サンマリノ）

【神社概要】

所在地	サンマリノ（San Marino）
創建	2014年
勧請元	なし
祭神	天照大御神
管理状況	2024年8月現在、常駐管理者は不在。2代目宮司は日本在住。

① 創建の経緯

駐日サンマリノ大使マンリオ・カデロ（Manlio Cadelo）氏が、2011年の東日本大震災の犠牲者を慰霊するため、自国に神道の神社を建立することを発案した。カデロ大使は1964年、最初の東京オリンピックが開催された年に初めて来日し、1975年から約半世紀にわたり日本に在住している。2002年から現在まで22年間、駐日大使を務めている。

創建にあたり、天照大御神を祭神とする東京大神宮の神職が現地で祭祀を行っている。神明造の社殿（写真⑩）には伊勢神宮の式年遷宮によって生じた木材の一部が用いられている。これはいったん三重県伊勢市で建造された後、解体してサンマリノまで船で運び、当地で再び組み立て直して完成させ



写真⑩ 神明造の社殿

323 令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」
たという。創建当初は野ざらしだったが、現在は社殿を覆う雨除けの屋根が
設けられている。

② 現況

2024年8月の現地訪問時点では、屋外にあり（写真⑪・⑫）、誰でも自由に参拝できるという点で、日本の神社とよく似た環境にある。ただし、市街地から遠く離れているうえ、神道を信仰する人はサンマリノ国内や周辺のイタリアにもほとんど住んでいないため、日常的な参拝者は少ないと思われる。



写真⑪ 「サンマリノ神社」との神額を掲げる鳥居



写真⑫ オリーブの木に囲まれた社殿。左手にはブドウ畑が広がる

現地では毎年5～6月に「サンマリノまつり」と呼ばれるイベントが開催される。このときに、サンマリノ神社でも日本から渡航して来る神職による祭事が営まれる。

それ以外の時期は常駐管理者はいない。創建当初は、日本で神職の修業をした現地在住のイタリア人が初代宮司として境内の施設管理なども行っていたという。一方、現在の2代目宮司は日本人で、将来的に現地移住の意向は持っているものの、2024年時点では日本国内に在住している。したがって、現地では日常的な神道の祭事は行われていない。

なお、現地では関係者不在であることが報告者の訪問前にわかっていたため、サンマリノ神社に関するヒアリングは、渡欧前に在日サンマリノ大使館でカデロ大使に、また本学渋谷キャンパスでサンマリノ神社2代目宮司の神宮司善基氏（國學院大學北海道短期大学部卒業）に面会して実施した。

③ 将来の展望

駐日サンマリノ大使館の全面的な協力によって建立された経緯を踏まえれば、サンマリノ共和国側が日本との外交関係も踏まえてその存在を重視していることが明らかであり、中長期的な維持・管理の継続はある程度見込まれる。また、日本在住の2代目宮司は将来的に現地へ移住して、神職として常駐したい意向を持っている。

④ 立地条件と通信事情

サンマリノ共和国はイタリア東部の山中にある小さな独立国で、世界最古の共和国と言われている。ボローニャ（Bologna）の南東約100kmに位置するリミニ（Rimini）の町から、バスで1時間ほど山道を上ったところにある。

サンマリノ神社はサンマリノの中心街からは自動車で15分ほどかかる郊外にあり、四方をブドウ畑に囲まれている。公共交通機関はバスだけだが、運行ダイヤやコースがはっきりしないため外国人旅行者が利用するのは現実には難しく、レンタカーを借りて自力で運転するか、タクシーを利用するしかない。ただ、サンマリノではタクシーが街の中を流して走っているわけでは

321 令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」

なく、利用する場合は電話で呼んで交渉する必要がある。そのため、日本人が訪れるにはやや不便な場所といえる。

常駐管理者がいないため、現地の最新状況を随時把握することは難しいが、2024年現在、イタリア留学経験を持つ本学神道文化学部 の 在 学 生 1 名 が 日 本 語、英語、イタリア語でサンマリノ神社の公式インスタグラムによる情報発信を担当している。

(4) フォードム松尾神社（イギリス）

【神社概要】

所在地	フォードム（Fordham）〔ケンブリッジ北東約30km〕
創建	2024年 6 月30日
勧請元	松尾大社（京都府京都市西京区嵐山）
祭神	大山咋神（オオヤマクイノカミ） 市杵島姫命（イチキシマヒメノミコト）
管理状況	日本酒醸造会社の敷地内にある邸内社（神職は不在）

① 創建の経緯

約200年前から大阪で酒造りをしている会社が、日本酒を現地生産する堂島酒醸造所（Dojima Sake Brewery）をケンブリッジ（Cambridge）近郊のフォードム（Fordham）に開設している。同社がイギリスへ進出するにあたり、醸造の守護神として日本の酒造りの関係者から崇敬を集めている京都の松尾大社と同じ祭神（大山咋神）を祭る神社を自社の敷地内に設けることを希望し、これに松尾大社が応えて勧請元となることで建立に至った。創建にあたって斎行した奉鎮祭には、在英日本大使館やケンブリッジ大学の関係者などが多数参列している。

② 現況

報告者は渡欧前に当神社の詳細を把握することができなかったが、現地滞在中に築いた人的ネットワークを介して同醸造所とコンタクトを取ることができ、創建 2 ヶ月半後の2024年 9 月に訪問・参拝した。

境内が屋外にある（写真⑬）点は日本の神社と同じだが、伝統的な修道院を転用した堂島酒醸造所の敷地内に位置している（写真⑭）ため、関係者以外の者がいつでも自由に立ち入って参拝することはできない。醸造所として酒蔵などの団体見学ツアーに応じることがあり、その際には同神社の参拝もできる。また、地域貢献の一環として、同じ敷地内にある日本庭園等と併せて一般開放されることもあるという。社殿の管理などはすべて同社所属の日本人によって行われている。

同醸造所には醸造業に携わる職人及び経営上の事務を担うスタッフが勤務しているが、その中に神職はいない。そのため、月次祭などの定例的な祭事



写真⑬ フォードダム松尾神社の境内



写真⑭ 堂島酒醸造所の正面玄関

は行われていない。ただ、同社が勧請元の松尾大社からのアドバイスを踏まえて、日々の神棚の維持・管理を行っているという。松尾大社の分社であり、日本酒醸造会社の敷地内にある神社らしく、神棚には同社が現地生産している日本酒が供えられていた（写真⑮）。

③ 将来の展望

同醸造所によれば、2024年6月の神社創建以降、在英日本人などから参拝に関する問合せが増加したという。あくまでも日本酒の醸造業が本業であり、かつ、神社を含むフォーダム修道院の敷地内は原則として会員のみが利用できるシステムであること、さらに神社のエリアを不特定多数に向けて開放するのに必要十分なマンパワーもないことから、現時点では神社を常時一般開放する予定はない。

ただし、敷地内にある神社や日本庭園が、在英日本人や日本文化に関心を持つ現地住民に有為なコミュニティーとなり得ることは、同社としてもよく認識している。報告者が現地を訪ねた時点ではまだ建立から日が浅かったこともあり、七五三や初詣といった季節行事をどのように行えばよいか、具体的な運営方法を醸造所としてまさに検討し始めているとのことであった。



写真⑮ 社殿内部。神棚に現地生産の日本酒が供えられている

④ 立地条件と通信事情

ケンブリッジから近郊列車で2駅離れたイーリー（Ely）まで乗車し、駅前からタクシーに乗って15分ほどで到着する。ケンブリッジ市内から車を利用する場合の所要時間は約30分で、イーリー、ケンブリッジのいずれからでも、公共交通機関で現地まで直接アクセスすることは難しい。

同社は堂島酒醸造所や日本庭園、神社を含むフォーダム修道院全体に関して、英語のホームページで情報発信を行っている。修道院の敷地内にフォーダム松尾神社があることや、修道院の見学ツアーに関する情報などは、そのホームページから確認できる。

(5) 合氣神社（フランス）

【神社概要】

所在地	ブル・アルジャンタル（Bourg-Argental）〔リヨン南西約90km〕
創建	2022年
勧請元	なし
祭神	天照大御神
管理状況	合気道本部道場の敷地内にある邸内社（神職は不在）

① 創建の経緯

小林流合気道の師範、アンドレ・コニャール（André Cognard）氏（写真⑬）の右。左は同夫人）が運営する国際合気道研修会の敷地内にある。同敷地内には2003年に小規模の稲荷神社（写真⑰・⑱）が建てられていたが、これと隣接する場所に、2022年に現在の合氣神社の社殿（写真⑲）や鳥居（写真⑳）が建立された。現地では日本語で「合氣神社」との漢字表記は掲示されていないが、コニャール氏の著書『敵なくして生きる』（訳・尾崎俊輔、発行・Centon éditions、2024年）に「合氣神社」との表記があることから、この発表でも「合氣」と表記する。

合気道の開祖・植芝盛平（1883年～1969年）の直弟子である小林裕和（1929年～1998年）に師事し、フランスで小林裕和合気道アカデミーを設立したコニャール氏は、「合気道は宗教そのものとはつながっているわけではない」と



写真⑯ 社殿の前に立つコニャール夫妻



写真⑰ 2003年建立の稲荷神社



写真⑱ 稲荷神社の社殿内部

の小林師範の理念を尊重しつつも、「現実には神道の考え方や発想が合気道と深い関係にある」と考えたことから、本部道場の敷地内に神社の社殿等を設けたという。2022年の創建時の祭典には、日本から神職が来仏して神事を執り行い、在リヨン日本領事事務所からも職員が参列している。



写真⑱ 2022年に完成した合氣神社の社殿



写真⑳ 合氣神社の鳥居

② 現況

報告者はあらかじめコニャール氏にアポイントメントを取り、2024年10月に訪問・参拝した。コニャール氏は日本語が堪能で、電子メールでのやりとりは英語だが、現地でのコミュニケーションはすべて日本語で行うことができた。

国際合気道研修会の敷地内にあるため、日本の神社のように常時一般開放



写真② 合気神社の社殿内部

されているわけではないが、道場では国内外からやって来る合気道関係者による稽古やセミナーが頻繁に開催され、大勢の来訪者が参拝しているという。

神職は常駐しておらず、月次祭などの定例的な祭事は行われていない。毎年8月の小林裕和師範の命日に道場及び神社境内が一般開放され、社殿で祭事を行うことになっている。その際はコニャール師範の弟子である日本人の神職が来仏し、奉仕しているという。それ以外の時期は、道場の運営に携わる弟子が交替で社殿の清掃など日常的な管理にあたっているとのことであった。社殿内部には鏡、神籬、神宮大麻や出雲大社の御神札が安置され、酒樽が片隅に積み上げられていて、神棚に供える御神酒や水の交換は高い頻度で行われていることが窺えた（写真②）。

③ 将来の展望

国際合気道研修会の敷地内にあって、道場の関係者が定期的かつ交替で社殿の管理に携わっていることから、今後も毎年8月の祭事をはじめ、社殿の日々の管理や来訪者の参拝対応は邸内社として持続的に行われていくと思われる。

④ 立地条件と通信事情

パリに次ぐフランス第2の都市とされるリヨン（Lyon）の南西約60kmに

令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」³¹⁴あるサン・テティエンヌ (Saint-Étienne) まで普通列車に乗り (所要約50分)、下車後、街の南東にある峠を越えた山の反対側にあるブル・アルジャンタルまでは自動車でおよそ1時間かかる。公共交通機関はサン・テティエンヌからバスが通じている。

報告者が現地訪問した2024年10月時点で、小林流合気道本部道場の公式ホームページ (フランス語) にはブル・アルジャンタルの道場の場所は紹介されているが、敷地内に合気神社が存在することには触れられていない。また、訪問前にインターネットで検索しても、この合気神社に関する情報は得られなかった。

そのような知られざる状態であったため、報告者は渡欧前にこの合気神社の存在自体を認識できていなかった。現地訪問に至ったのは、アムステルダムの日蘭親善斎宮でのレオ宮司とのヒアリングが最初のきっかけであり、コニャール氏への取り次ぎもレオ宮司の紹介によって実現した。

なお、2024年12月時点では、インターネットで「Aiki Jinja」と検索すると、カリブ海のフランス海外県マルチニークにある同名の神社がヒットするが、当神社とは無関係である。

(番外) Pavilion MIWA (フランス)

パリの中心部、ルーヴル美術館の南側を流れるセヌ川の対岸の住宅街の一角に、Pavilion MIWAという茶室のような施設 (写真②・③) がある。コロナ禍以前は、ここで在仏の日本人神職による神道式のセレモニーが行われているとの情報があった。コロナ禍で一時閉鎖されていたもの、近時再開されたとの更新情報を得たことから、事前に運営者にアポイントメントをとり、2024年10月に現地を訪問してヒアリングを行った。

オーナーは日仏間を往来している日本人で、この施設は2012年に開設したという。「MIWA」の名は奈良県の大神 (おおみわ) 神社に由来している。コロナ禍以前は在仏の日本人神職の協力を得て、地元のフランス人が参列しての月次祭などを室外の中庭で斎行していた時期もあるが、折形清祇のセレモニーを行うことが主目的の施設であり、空間自体に神道や神社との直接の



写真② Pavilion MIWAの玄関(建物上部が工事中だった)



写真③ Pavilion MIWA室内。最深部に神棚が設けられている

関係はないとのことであった。

四. 結論（調査結果の分析）

以上の現地調査の結果、2024年10月に国外派遣研究を終了した時点で、ヨーロッパにある5つの神社のうち和光神社、サンマリノ神社、フォーダム松尾

令和6年度第2回研究開発推進センター研究会「ヨーロッパに鎮座する神社の現況」³¹²
神社の3社は日本人が何らかの形で運営や祭事に関わっているが、神職が常駐し、神道としての宗教活動が日常的に行われているのは日本人が関与していない日蘭親善斎宮のみであることが確認できた。また、現地で実施したそれぞれの神社の関係者へのヒアリング結果からは、どの神社も、参拝者は現地在住の日本人よりも地元、もしくは欧州全域から訪ねてくるヨーロッパ人の方が多い傾向にあることもわかった。

また、各神社の関係者へのヒアリングからは、同じヨーロッパにあるにもかかわらず、この5社には相互の連携関係がほとんどない、という実態も明らかになった。オランダの日蘭親善斎宮の宮司がフランスの合氣神社の管理者を報告者に取り次いでくれたケースはほぼ唯一の例外で、それ以外の現地関係者は、「ヨーロッパ内に他にも神社が存在していることを何となく聞いたことがある」という程度の認識であることが多かった。

最後に、これらの神社の今後については、常駐の宗教家（神職に限らない）による日常的な宗教活動が行われている和光神社と日蘭親善斎宮のほうが、中長期的かつ持続的な将来の見通しが不透明であることも、現地でのヒアリングによって把握できた。両神社とも、神道になじみが薄いヨーロッパの地において、常駐する宗教家個人の強い熱意や信仰心に依拠して存立しているため、その個人が高齢になれば後継問題が浮上するのは必然ではある。一方、サンマリノ神社、フォーダム松尾神社、合氣神社の3社は、駐日公館や企業、団体に支えられている側面があるため、今のところそのような問題はないといえる。

本報告自体は学術的な分析を伴うものではなく、あくまでも最新の実態を調べたうえでの現状を紹介するものに過ぎない。ただ、この調査結果を國學院大學内で記録・共有することにより、将来の本学の研究活動や大学全体の国際ネットワークの展開策に何らかの示唆を与える可能性を作ることが、この研究開発推進センターの研究会で報告の機会をいただいた最大の目的である。

※本稿は、令和6年12月20日開催の令和6年度第2回研究開発推進センター研究会における報告内容に適宜補訂を加えたものである。

